

# 平成27年度 学校法人 三幸学園 千葉リゾート&スポーツ専門学校

## 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 節田 春奈

学校関係者評価報告責任者:学校関係者評価委員会委員長 山本 陽一

### 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

### 2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

#### ① 重点施策振り返り

26年度に引き続き、「人間性を高めるための教育実践」「高い現場力の醸成」を重点的に取り組む目標に掲げ教務指導に取り組んできた。地域や各スポーツ団体からの要請による課外活動、ボランティア活動を通じて社会人基礎力・スポーツに携わるための人間性の向上、産学連携による「総合演習」「関連施設実習」を通じて現場力の向上を生徒自らが体感できる機会を数多く作りだす事はできていた。学内での学習内容と現場での実践との間に体験を通して実感したことを理論として落とし込む工夫が更に必要である。

今後は資格取得率の向上や、退学率の低減など教務指導力の更なるレベルアップのための教員研修と産学連携による現場力向上のための職業教育を継続していく事が不可欠である。

#### ② 学校関係者評価委員会コメント

- ・教育理念・目標については生徒に浸透しているのではないかと(実習生、卒業生を介して)
- ・適切な学校運営ができている
- ・教育課程、シラバスの改訂など業界ニーズを反映させる仕組みが整っている。また、各種アンケート調査の結果分析を教務指導や教育活動に活かしている事は評価できる
- ・資格取得率、就職決定率などの数値的評価、実習生・卒業生の現場での活躍を通しての評価ともに学習の成果がでている
- ・課外活動、ボランティア活動は引き続き現場力醸成のために実施して欲しい
- ・現場力、実践力と人間性のバランスが必要であり、サービス業種であることを理解したスキルとマインドを養う事が職業教育機関として期待している

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

#### ① 課題

- ・業界のニーズに対応した人材育成像を生徒が理解し、具体的な目標として目指す将来像と合致させる

#### ② 今後の改善方策

- ・保護者への定期的な文書などによる学校状況の報告を通じて教育内容の理解を促進
- ・早い段階から業界人講話、現場施設見学などにより、現場のニーズを理解させる

#### ③ 特記事項

- ・教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている
- ・産学連携により、フィットネスクラブと提携を結び業界の即戦力となれる人材育成の為のカリキュラム等を共同開発している
- ・入学後、保護者へのご挨拶の電話を実施

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・理念、育成すべき人材像が明確に定められている
- ・在校生については浸透できているので、保護者や地域に対して周知する機会を増やす必要がある
- ・入学直後の意識付け、導入プログラムが教育理念の浸透に良い影響を与えている
- ・教職員への教育理念、目標の浸透が出来ているからこそ、生徒の目的意識が高いのではないかと

## (2). 学校運営

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

### ① 課題

- ・グループウェアの活用した情報共有等による業務の効率化をさらに推し進める

### ② 今後の改善方策

- ・グループウェアの効果的な活用方法の理解促進

### ③ 特記事項

- ・2015年4月三幸学園システム推進室設置により、グループウェアの活用がより効果的・全社的に遂行できるようになり、業務効率、情報共有、セキュリティが向上している
- ・年に3回の全教職員会議を実施し、運営方針の浸透・情報共有を行っている
- ・効率化する為に、電子管理システムなどを取り組みたい

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・目的、事業計画に沿った運営方針が策定されている
- ・稟議規定が定められており、健全な組織運営がなされていると感じる
- ・情報公開、コンプライアンスなど適切な学校運営を今後も引き続き行ってほしい
- ・事務等の効率化を推し進め教育の質向上に時間をかけてほしい

### (3). 教育活動

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

#### ① 課題

・実践的なキャリア教育を推し進めるために、業界・社会のニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を最適化する。

#### ② 今後の改善方策

- ・提携企業の協力により、教育課程の共同編成・シラバス開発を行う
- ・能力開発の研修等を取り入れる

#### ③ 特記事項

・平成 26 年度より学生による授業評価の見直しが完了。また、実習先(企業)と実習生(学生)による相互評価を実施している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・教育理念、方針、成績評価基準など明文化されており、また企業実習等が実践的に行われている。
- ・教育課程の共同編成、シラバス開発を行っているのが評価できる。
- ・授業、実習先、実習生、卒業生など評価体制が整っていることが評価できる

#### (4). 学修成果

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

##### ① 課題

- ・資格取得率の更なる向上
- ・退学者の低減
- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映

##### ② 今後の改善方策

- ・資格取得への動機づけの強化及び環境面の整備
- ・退学者プロジェクトに基づき、クラス報告会の実施と退学防止事例の共有を実施
- ・就職ガイダンス、就職決起大会の中で卒業生講話を実施
- ・最初に行うスタートアッププログラムでいかに意識づけさせる事が出来るかで変わってくる。

##### ③ 特記事項

- ・退学率低減プロジェクト設立
- ・プロゲテストと退学率の調査実施
- ・平成 27 年度進路決定率:94.7%(平成 28 年 3 月 24 現在)
- ・平成 27 年度退学率:13.8%

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・進路決定率、資格取得率については職業教育機関として更なる向上を期待したい
- ・学修成果としては卒業生の各企業での活躍も重要な指標となるため、卒業生ネットワークを活かして情報収集を続けて欲しい
- ・社会性の欠如＝社会人基礎力の不足は専門技術・知識では埋められないため、挨拶・コミュニケーションスキルなどのベースを身に付けさせて欲しい
- ・退学率低減に向けた、学校全体の取組みが必要だと感じる

## (5). 学生支援

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

### ① 課題

- ・卒業生との連携強化及び支援体制の強化
- ・保護者との連携は問題のある生徒に偏る傾向がある

### ② 今後の改善方策

- ・同窓会SNS「三幸リンク」の活用とそこからの情報発信
- ・定期的な保護者への連絡を実施、学校行事等の見学機会を設定
- ・課外活動、ボランティア活動中の緊急対応マニュアル作成
- ・緊急時に学生に発信できる掲示板を作成し備える。

### ③ 特記事項

- ・飛鳥未来高等学校にて「職業理解のためのガイダンス」を実施
- ・千葉県専修学校各種学校協会主催「千葉県仕事の学び場」事業(専修学校・高等学校連携職業教育推進プラン)に参加

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生支援体制は整っており、安心して学習できる環境だと思う
- ・同窓会サイトの活用により卒業生への支援はできていると思う
- ・保護者との連携は教育理念、方針の共有や理解に繋がり学生支援体制をより強化できるのではないかと

## (6). 教育環境

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

### ① 課題

- ・更に質の高い教育をめざし、教育環境・体制を整備する

### ② 今後の改善方策

- ・社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する

### ③ 特記事項

- ・27年度の海外研修より現地での研修内容等を一新し各科に適した研修内容を導入

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・施設、設備は十分整っている様に見受けられる
- ・安全性の配慮からトレーニングルームのメンテナンスを定期的に変更したほうがよい
- ・学外実習施設、インターンシップ施設の開拓が適宜行われている
- ・産学連携による学外での活動の場が確保できている

## (7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

### ① 課題

・学生募集活動は適切に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に出身高校に伝えられていない

### ② 今後の改善方策

・首都圏地区の広報をサポートする首都圏広報室と情報を随時共有し、高校訪問にて学生の出身高校の先生方に状況を伝えてもらう

### ③ 特記事項

・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている  
・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・募集活動は適切に行われていると感じる  
・学納金は妥当なものとなっている  
・引き続き、適切な募集活動と資格・就職等の実績を正しく公表して欲しい



## (8). 財務

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

### ① 課題

・社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える

### ② 今後の改善方策

・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んで行く  
 ・規模の増加に対応するための人材の育成

### ③ 特記事項

中期的な財務基盤の安定について

・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

予算及び収支計画の有効性、妥当性について

・予算及び収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において補正予算の原案を策定している

・予算執行状況が当初予算と乖離する場合は、予算変遷会議において補正予算の原案を策定している

・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議委員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している

会計監査について

・私立学校振興助成法大14条大3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している

また、私立学校第37条の学校法人監査による業務監査及び関係監査を受検している

・法人内部では、総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計士と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している

財務情報公開について

・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・財務状況は健全であり、安定した財務基盤を維持している事は評価できる

・適切な会計監査が行われており、且つ情報公開により透明性を保っている事は評価できる

## (9). 法令等の遵守

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④ 3 2 1
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

### ① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

### ② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく

### ③ 特記事項

- ・2014年度自己評価結果より公開を開始

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・自己評価を公開している事は評価できる
- ・今後も法令を遵守し、学校運営をして欲しい

## (10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

### ① 課題

- ・地域や一般の方に向けた公開講座が少ない

### ② 今後の改善方策

- ・地域貢献に繋がる公開講座を積極的に実施していく
- ・地域を巻き込んだ学内フィットネスクラブ実施→地域の方に参加して頂き良き関係を築く

### ③ 特記事項

- ・3月全国高等学校女子ソフトボール選抜大会でトレーナーサポートを実施
- ・5月、6月千葉ロッテマリーンズ主催試合でトレーナーブース設置
- ・6月幕張ビーチフェスタでストレッチブース設置
- ・8月2日にJEF千葉との連携で公開講座を実施予定
- ・10月JEF千葉ユナバ祭りで公開講座を実施予定
- ・10月ハロイン・ゾンビダッシュで大会サポート

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ボランティア活動に積極的に参加している学生が多くいる事は評価できる
- ・関係分野に関わるボランティア活動が多く実施されていて、現場力向上に繋がっているように感じる
- ・ボランティア活動の成果を何らかの形で公開してもいいのではないか

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4 3 ② 1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4 3 ② 1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 ② 1
学内で適切な体制が整備されているか	4 3 ② 1

① 課題

- ・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある

② 今後の改善方策

- ・留学生向けのホームページ上コンテンツの強化
- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施回数を増加
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する
- ・同グループに日本語学校を設立したので、協力を得る

③ 特記事項

- ・2014 年度から「留学生学費減免入学」制度を実施している
- ・2016 年度から東京都に日本語学校を設置している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・今後日本語学校からの進学も期待できる

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・人間性を高める教育の実践 高い現場力の醸成

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、各学科で重点教育項目を設定し資格取得率、就職決定率などの定量的な目標と社会人基礎力、人間関係能力向上など人間性を高める目標を掲げて学内での教育カリキュラムだけではなく課外活動・ボランティア活動など現場での経験値を高める機会を作り、現場力の向上に取り組んだ。

課題としては、卒業後の定着率向上とサービス業種としての接客技術、コミュニケーション能力などの社会性と資格取得、知識技術などの専門性スキルを兼ね備えている生徒を輩出することで、そのためには人材育成像を学生が理解し目標として目指すべき将来像・ゴールを明確にして日々授業やボランティア活動に主体的に取り組む体制を更に整える必要がある。